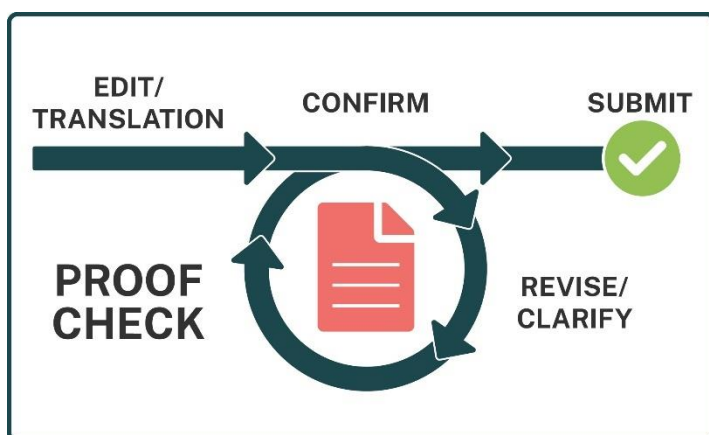


プルーフチェックについて知っておくべきこと

Brian F. Sanford and John Zepernick, MS

ThinkSCIENCE, Inc. | [Writing](#)



校正や翻訳の質を高めるには、エディターまたは翻訳チーム（翻訳者＋エディター）と原稿の執筆者との間で、何らかのコミュニケーションを取らなければならないことがあります。論文の著者が納品された原稿に目を通した際に、エディターや翻訳

者に特定の箇所をもう一度確認してもらいたいと思うことがあるでしょう。校正や翻訳を行った後に、もう一度テキストをチェックし修正するプロセスが「プルーフチェック」と呼ばれるものです。必ずしもすべての著者がプルーフチェックを必要とするわけではありませんが、自分たちで原稿に修正を加えたときや、特定の文章や表現をより明確にしたい場合、プルーフチェックを行うことは大変有益です。

プルーフチェックの段階で、著者は、担当のエディターや翻訳者にフィードバックを与え、彼らからの質問に答え、意図が不明確であった箇所の説明をし、特定の箇所の表現の変更を依頼することができます。また、著者自身が直接表現を修正し、あるいは自分たちが使用したい表現についてコメントを加え、必要に応じてこれらの変更箇所のチェックを依頼することもできます。このように、プルーフチェックは、翻訳・校正のプロセスにおいて然るべく行われる重要なステップです。



Copyright 2024 © ThinkSCIENCE, Inc.

This work is licensed under a [Creative Commons Attribution-NonCommercial 4.0 International License](#).

ThinkSCIENCE は、著者が自身の研究について明確かつ正確に内容を伝え、そして専門家らしい信頼できる論文に仕上げるときに、プルーフチェックは必要かつ最善の方法であると考えています。そのため、包括的な校正、プルーフリーディング、スタンダード翻訳（校正込みの翻訳）の付帯サービスとして、プルーフチェックを無料で行っていきます。

今回の特集記事では、皆さんがどのような場合にプルーフチェックが必要なのかを判断できるように、プルーフチェックを行う意味と価値について概説します。

プルーフチェックとは何か？

プルーフチェックは、納品された校正後または翻訳後の原稿をもう一度私たちの元に戻していただき、再チェック（通常は最終チェック）を行うプロセスです（弊社ではプルーフチェックを「再校正」と呼ぶことがあります）。プルーフチェックの段階で、私たちはお客様が修正をしたテキストをチェックし、お客様からの質問にお答えし、また、新たに加えられたテキストをダブルチェックします。お客様が満足されている翻訳や校正箇所はできる限り変更しないように努めますが、既存のテキストと修正された箇所との間で、語調や文章の流れが一貫するように軽微な変更を加えることがあります。

なぜプルーフチェックを行うのか？

プルーフチェックは、翻訳や校正の後に原稿に加えた変更箇所の最終チェックを受ける機会となります。原稿に変更が加えられるのには、いくつかの理由が考えられます。

- 不明瞭なフレーズに対してエディターが提案した校正案のうち、正しいものを選択する、または意図するニュアンスとの違いを説明するための変更。
- テキストに関するエディターの疑問（例えば、好ましい専門用語、矛盾点、意図する意味についてなど）に答えるための変更。この変更により、エディターは、周囲のテキストまたは原稿全体の文脈に正確かつスムーズに合うように考



慮しながら、問題があったテキストを再校正することができるようになります。

- プルーフチェックを行うかどうかは任意ですが、校正により元の原稿にかなりの変更が入ったときや、著者の意図を確認するためにエディターが多くの質問を残したときには、私たちからプルーフチェックの実施をお勧めすることがあります。

翻訳チームまたはエディターからの問い合わせの例

私たちは通常、原稿内の該当箇所に黄色いハイライトを付け、その後続けて二重括弧[[]]内に記入した著者へのコメントや問い合わせを文中に直接挿入します。このようなやり方を採用しているのは、文字検索機能 (Ctrl + F) を使い二重括弧記号[[]]を検索することにより、コメントした箇所を見つけやすくするためです。Microsoft Word に代表されるほとんどのワープロソフトにはコメント機能 (コメントボックスにコメントを入力する形のもの) が内蔵されていますが、私たちの経験上、ソフトウェアの設定によっては、小さなコメントボックスの見落としが起りやすいため、私たちはテキスト内に直接コメントを挿入するやり方を取っています。

エディターが校正時によく残すコメントは、**[[Is this your intended meaning?]]** ([[これが意図されていた意味でしょうか?]]) と **[[Please confirm]]** ([[ご確認ください]]) の2つです。もし校正されたテキストが合っていれば、皆さんはハイライトされたコメント部分を削除するだけで、コメントに対する返事を記入する必要はありません。プルーフチェックの段階で、弊社のエディターは文章の一貫性と論理的な流れに注意しながら、戻された原稿を再チェックします。

もう一つのコメント例は、**[[Do you mean "xxxx" or "yyyyy" here?]]** ([[ここでは xxxx それとも yyyyy を意味していますか?]]) です。提案されたフレーズのいずれかが正しければ、そのフレーズだけを残し、他の提案は削除するだけで済みます。もし提案されたフ



レーズのどれも意図に合わない場合には、テキストを直接変更して新たな表現に書き換えてください。それをエディターが再チェックします。必要な場合には、エディターへのコメントや説明を追記していただいても結構です。

私たちは、皆さんが簡単に素早く対応できるよう、コメントや質問、説明をできるだけ短くまとめ、必要最小限にとどめるように常に心がけています。

皆さんが納品された原稿をチェックする際には、エディターに向けて変更の指示を書き入れるよりも、該当箇所のテキストを直接変更されたほうが、プルーフチェックに要する時間は短くなるでしょう。

注：オプションサービスの[投稿規定チェック](#)をご利用いただいた場合には、ターゲットジャーナルの投稿規定に合うように変更・追加した箇所の補足説明として、**[[highlight in gray]]**のようにグレーのハイライトを付けたコメントを挿入します。

プルーフチェックはどんなときに必要か？

校正後の原稿が意図していた意味を正確に伝え、エディターから著者に向けたコメントがすべて解決し、エディターに対する質問もない場合には、プルーフチェックを行う必要はないでしょう。

しかし、エディターからのコメントに応じてテキストに修正を加えたとき、または意図をより明確にするためにテキストに手を加える必要があるときには、エディターに原稿をもう一度見てもらい、すべてに問題がないことを確認してもらうことに価値があります。なぜなら、テキストの一部だけを変更した場合でも、それが他の部分に影響を及ぼすことがあるからです。全体の整合性や論理的な流れに問題がないように、私たちのエディターは変更されていないテキストもチェックします。



例を挙げてみましょう。校正後の原稿に次の一文が追加されたとします：

Cardiopulmonary resuscitation (CPR) was performed for 5 minutes (Fig. 3)

- 略語「CPR」は原稿内で定義されているでしょうか？
- 数字にはどのスタイルが使われているでしょうか（「5」それとも「five」）？
- 時間の単位は省略形それとも非省略形でしょうか（「min」それとも「minutes」）？
- 図に言及するときのスタイルは統一されているでしょうか（「Fig.」それとも「Figure」）？
- Fig. 3 が原稿内に登場する順番は正しいでしょうか？

上記のような点に留意することは重大ではないように思われるかもしれませんが、論文の明瞭さを保ち、他の研究者から信頼できる論文として見てもらうためには必要なチェックポイントとなります。私たちは、エディターや翻訳者としての経験、知識、判断力を駆使して、表現が変更されたときに起こりうる問題を特定・修正します。AI や機械翻訳ツールは文法的に正しい文章の作成には役立ちますが、その生成された文章は、変更された後の文脈には適さないことがしばしば起こり得ます。

プルーフチェックを依頼する

プルーフチェックを行うことに利点があると判断した場合、念頭に置いておくべきポイントがいくつかあります。プルーフチェックを受けるために論文の修正を行うときには次のことに留意してください。

- 校正または翻訳後の原稿を複数の共著者がチェックすることが多いので、使用する用語やスタイルについて全員が同じ認識を共有していることを確認してください。これにより、論文中に矛盾や不一致が生じることを回避できます。





- 翻訳の場合、一つのテキストに対して複数の訳文が考えられることは少なくありません。ある特定の日本語用語を表す英語には、複数の類義語があるかもしれません。使用を希望する用語がある場合には、プルーフチェックのときに知らせましょう。
- 翻訳または校正されたテキストが自分たちの意図するニュアンスを正確に伝えているかどうか確信が持てないときや、特定の用語を使いたいと考えたときには、エディターや翻訳者に尋ねてみましょう。新しい造語が適切かどうかを尋ねることも可能です。
- 固有名詞（所属名や人名など）が異なっているときには必ず訂正してください。
- 校正または翻訳されたテキストについて質問があるけれども、内容が複雑なため英語で説明や質問をすることがどうしても難しい場合、ご希望の方は日本語でお書きいただいても結構です。私たちのスタッフが代わりにエディターに内容を伝え、正確さとニュアンスを確保します。
- エディターが変更した箇所を元に戻したいときには、その理由を説明したうえで、エディターに再度チェックを依頼することが可能です。これは、該当箇所にエディターからの質問が残されていたときには特に重要となります。もしエディターからの質問に答えることなく該当箇所を元に戻した場合、意味が不明瞭で、周囲のテキストとの流れも合わない可能性があります。

急いでいるとき

プルーフチェックは、通常 1~2 営業日以内で行いますが、担当者の空き状況や必要な作業量によって、同日の EXPRESS 対応が可能な場合もあります。お急ぎの場合は担当コーディネーターにお知らせください。



証明書の発行

多くのジャーナルが英語を第一言語としない著者に対して校正証明書や翻訳証明書の提出を求めます。私たちは[オプションサービス](#)として証明書をご提供しています。証明書は通常、最終のプルーフチェックが完了し、さらなる変更の必要がなくなった後に発行されます。私たちの[無料メンバーリワード・プログラム](#)の一つとして、メンバー様には校正／プルーフリーディング／翻訳証明書を無料で発行・提供いたします。

まとめ

校正または翻訳後の原稿を受け取った後にテキストに変更を加えたい場合には、ぜひ無料のプルーフチェックをご利用ください。プルーフチェックは納品された原稿についての疑問を解決する機会となるだけでなく、皆さんの意図されている意味が正確かつ明確に伝えられているかどうかの確認を可能にするプロセスでもあります。

プルーフチェックについて、また翻訳や校正サービスについてお知りになりたいことがございましたら、お気軽に[お問い合わせ](#)ください。

オンライン版の記事はこちらから



Copyright 2024 © ThinkSCIENCE, Inc.

This work is licensed under a [Creative Commons Attribution-NoDerivatives 4.0 International License](#).